平成30年度

第2回熊本博物館協議会

平成31年3月13日（水）午前10時

熊本博物館

次　第

1　開会

2　館長挨拶

3　議事

(1)平成30年度事業報告について

(2)平成31年度事業計画について

(3)その他

4　閉会

議事（1）

平成30年度事業報告について（平成31年2月末時点）

1. 展示活動（企画展・リニューアルオープン記念展特別展等）
2. 博物館における教育・普及活動
3. 保存修理事業関係
4. 展示環境管理
5. 塚原歴史民俗資料館関係

※平成 30 年度入館者状況（平成 31 年 2 月 28 日現在）

〈熊本博物館関係〉

１． 展示活動（企画展・リニューアルオープン記念展特別展等）

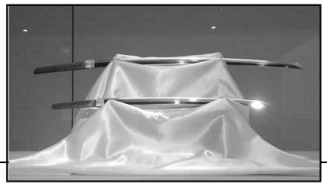
（１）企画展・共催展関係（リニューアルオープン前）

事　業　名	第10回「地質の日」企画「身近に知るくまもとの大地」（共催展）
趣　　旨 （目 的）	熊本県内の大学や自然史系博物館等が合同で、５月１０日「地質の日」に合わせ、一般市民にくまもとの大地や岩石、化石等に親しんでもらうことを目的とした展示・イベント
内　　容	３０年度は6月２日（土）熊本市のびぷれす広場にて実施し、約９００名が来場した。 熊本博物館の展示ブースでは熊本市街地でみられる石材を展示し、見学マップを配布した。 また、体験ブースでは実物のフズリナ石灰岩の磨り出し体験に127名参加した。 
今後の予定	来年度、第11回はびぷれす広場にて体験イベントを行い、熊本博物館で展示を実施予定。

事　業　名	第52回　肥後しゃくやく展
趣　　旨 （目 的）	肥後芍薬は、現在は数名の栽培者のみにより作られており、鑑賞できる機会も少ない。一般の方にもより知ってもらうための貴重な鑑賞の機会として本展示会を開催した。
内　　容	日程　5月３日（木・祝）、４日（金・祝） 場所　塚原歴史民俗資料館 切り花にて15品種２６点を展示した。 
成果及び効果 （参加者実績）	肥後芍薬を初めて見た、今まで知らなかったという方も多数来場された。また、新聞の掲載もあり多くの方に知って頂くことができた。
課題と対応	開花状況により、直前での日程変更があり広報において不十分な点があった。また、会場の周知も今後の課題である。

事業名	第58回　肥後朝顔秋の展示会（共催）
趣　　旨 （目 的）	肥後六花の１つである肥後朝顔を、広く一般の方々に鑑賞して頂き、普及・発展を図ると同時に、伝統園芸を後世へ伝える。
内　　容	日程　９月１日（土）、２日（日） 場所　熊本市動植物園 涼花会会員および熊本城総合事務所の出品により、２日間合計129鉢を展示した。会場には写真、解説パネル等を設置し、来場者には会員による栽培法や観賞法などの解説を行った。 
成果及び効果 （参加者実績）	当日の会場では会員が解説等を行い、来場者の中には栽培してみたいという方や肥後六花を知らなかったという小学生にも、教育・普及の面で効果があったと思われる。
課題と対応	栽培者が年々減少しており、今後も展示会や活動継続のために支援等を行っていく必要がある。

（2）リニューアルオープン記念展関係

事　業　名	リニューアルオープン記念展「記憶を未来につなぐ博物館」
趣　　旨 （目 的）	「記憶」、「つなぐ」、「未来」をキーワードとして、時代を越えて受け継がれていく熊本博物館のあゆみと魅力を伝える
内　　容	【展示内容】 ・熊本博物館のあゆみ　・新公開＆未公開コレクション ・熊本博物館リニューアルについて　・個人コレクションと博物館 ・未来に受け継ぐべき標本 ・自然科学・理工資料に見る人々の英知 ・技術と社会生活 ・平成28年熊本地震について 来場者数　29026 名（平成31年２月末日時点） 
今後の予定	会期は平成３１年4月7日（日）まで

（3）プラネタリウム関係

事業名	プラネタリウム投映
趣　　旨 （目 的）	星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。
内　　容	①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、職員の解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。 ②幼稚園・保育園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。 ③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映等を実施する。
成果及び効果 （参加者実績）	2018年12月1日～2019年2月28日
課題と対応	平日午前中の観覧者が団体での利用を除くと非常に少ない。 春番組投映時に平日午前観覧者へのプレゼント企画を検討中。

事業名	ロケット打ち上げパブリックビューイング
趣　　旨 （目 的）	天文・宇宙に関する最新の話題を市民へ伝える機会として、ロケットの打ち上げライブ中継をプラネタリウムドームに投映し、パブリックビューイングを行った。
内　　容	鹿児島県の内之浦宇宙空間観測所より打ち上げられるイプシロンロケット４号機の打ち上げライブ中継をプラネタリウムドームに投映し、パブリックビューイングを行った。
成果及び効果 （参加者実績）	130名
課題と対応	現地の天候により打ち上げが17日から18日に延期になったため、パブリックビューイングも延期としたが広報が不十分で17日に参加希望者が数人来館されるなどの混乱が生じた。中止・延期の際の広報手段について検討が必要である。

２．博物館における教育・普及活動

（１）ミュージアムトーク・講演会・講座等

① ミュージアムトーク

事業名	ミュージアムトーク
趣旨（目的）	一般来館者を対象にした、展示室での学芸員による展示解説（事前申し込み不要）
内容	12月16日（日）11：00 歴史 歴史分野常設展示 10名 12月16日（日）14：00 地質 ５億年のタイムライン 26名 1月12日（土）11：00 動物 イノシシの生態ほか 29名 1月13日（日）14：00 地質 鉱物とその利用 13名 2月9日 （土）11：00 動物 ムササビの生態ほか 23名 2月10日（日）14：00 地質 化石と熊本の地質概要 5名 2月17日（日）11：00 植物 江津湖・金峰山の植物 5名 2月23日（土）14：00 歴史・美術 リニューアルオープン展第二期展示 21名 2月24日（日）11：00 歴史 細川家舟屋形～波奈之丸の歴史 28名 2月24日（日）14：00 地質 絶滅したゾウと学名 16名
成果及び効果（参加者実績）	
課題と対応	学芸員からテーマに沿った話題を提供しつつ、学芸員と来館者の双方向のコミュニケーションを図っている。

② 講演会関係

事　業　名	天文講演会
趣旨（目的）	天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会として、第一線で活躍されている研究者の先生方をお招きし、最新の天文学について講演いただいた。
内容	（１）日本の月探査SELENE（かぐや）計画からUZUME計画 講師　宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所　春山　純一氏 日時　12月15日（土）　15時～16時30分 （２）太陽陽系ヴァーチャルツアー　ー新・パノラマ太陽系ー 講師　国立天文台　縣　秀彦 氏 日時　3月21日（木・祝）　15時～16時30分
成果及び効果（参加者実績）	140名
課題と対応	現在は当日朝からの整理券配布で対応しているが、今後の状況次第ではメール等での事前申し込み・抽選制への変更などの検討が必要と思われる。

事業名	熊本博物館リニューアル特別講演会　常設展示関連講演「小泉八雲と熊本」について
趣　　旨 （目的）	リニューアルにともない「生と死の断片」に書かれている小泉八雲が見たトンボの造り物をイメージした展示をしました。それにともない八雲は熊本で何を見て、何を感じたのか講演会を通して、来館者に考えていただき、展示を深く楽しんでもらうことを目的としている。
内　　容	平成31年1月27日（日）。アイルランド出身の小泉八雲は1891年11月から約3年間、熊本に滞在し、旧制五高で英語教師を務めた。そこに至るまでの生い立ちや人間関係について講演してもらった。坂本氏は「著作を通して世界に日本を伝え、西洋と東洋の橋渡し役になった」と語っている。
成果及び効果 （参加者実績）	33名
課題と対応	更に多くの方に参加いただくよう広報が必要。

③講座・教室等

事業名	子ども科学・ものづくり教室
趣　　旨 （目的）	小中学生を主な対象として『科学実験や科学工作』などの直接体験の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供する。 ※　子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）蒔きをする。
内　　容	色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、巴形銅器のレプリカ作りなど、植物、地質、考古分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。H30年度は、全26回を予定（H２９年度：２５回）。 【定員制教室の例】 コイルモーター作り、紙パックカメラ作り　他 【自由参加・ショー形式の例】 静電気実験ショー、液体窒素ショー　他 
成果及び効果 （参加者実績）	平成30年度は２月中旬時点で２４回の教室を開催し、約1３５０人の参加を得ている（昨年度の総数は９０１人。約6割が子ども）。
課題と対応	内容の更なる充実と、1回あたりの定員数の増加を予定。そのため、科学教室等の開催経験を諸機関・団体（大学・高専・NPO・教育サークル）等との連携を図り、協力体制を再構築する。

事　業　名	学校PTA活動・社会教育施設等での科学教室開催
趣　　旨 （目 的）	自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級PTA活動や公民館講座などに講師として参加し、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。
内　　容	※　子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、ともに活動を楽しむ。 ○　出水小学校３年PTA活動（9月1日：111人） ○　城北小学校４年PTA活動（10月10日：105人） 他（相談） ○　託麻公民館講座（7月22日：105人） ○　中央公民館講座（8月25日：25人） 他 ○　清水公民館・森都心プラザ図書館講座：3月
成果及び効果 （参加者実績）	館外にて、児童・生徒・保護者・PTA役員の方々に「科学工作等」の楽しさを伝える場となっている。再要請を願う声も多く好評である。
課題と対応	館内業務が優先するため回数的には多くを望めない。そこで、事前講習会（実技指導講習会）等を実施し、単独運営ができるよう支援する。

事業名	ミュージアムキッズ・全国フェア　in　京都
趣　　旨 （目 的）	東日本大震災を機に、全国の博物館・美術館等のミュージアム職員が、主に就学前の幼児から小学校低学年の子どもたち（と保護者）を対象とした教育普及活動を行い、笑顔と夢を描く時と場をプレゼントする。
内　　容	兵庫県立 人と自然の博物館内に事務局を有する『こども☆ひかりプロジェクト』の呼びかけに賛同した各ミュージアムが、出展可能な体験ブースを持ち寄り、てんもん・かがく部、いきもの部、びじゅつ部、れきし・みんぞく部、ちがく・こうがく部等に分かれて、子どもたちに体験的な学びや自然や芸術とのふれあいの場を提供する。 ○　9月1日（土）～2日（日）開催　（於：京都みやこメッセ）
成果及び効果 （参加者実績）	当館からは天文・地質担当学芸員が参加し、「てんもん・かがく部」ゾーンで光の全反射を利用した科学体験ブースを出展した。２日間で802人の参加があり、他館職員との交流も行うことができた。
課題と対応	この事業は東北地方中心に期間限定で継続開催中。H29年度は熊本でも実施され来年度は兵庫県での開催が予定されている。今後の参加予定は不明であるが、子どもたちのために何らかの形で協力していきたい。

事　業　名	通年講座「金峰山の地質」
趣　　旨 （目 的）	野外観察を通して金峰山の地質と成り立ちを学ぶ。
内　　容	熊本県博物館ネットワークセンターと共催で行っている隔月の通年講座。 ・平成３０年7月１日（日）　金峰山と火山の概要（座学）　27名 ・平成３０年9月２日（日）　金峰山（一の岳）と面木溶岩　20名 ・平成３０年１１月４日（日）　古金峰の火山岩類と成層火山　23名 ・平成３１年１月２０日（日）　金峰山北東部の湧水　18名 ・平成３１年3月３日（日）　二ノ岳、三ノ岳の地質　16名
成果及び効果 （参加者実績）	３０名以上の受講者が登録し、毎回２０名程度が出席・参加している
課題と対応	安全に大人数で観察できる露頭選定が課題であったが、下見での確認を十分に行い、無理のない範囲で観察を行った。

③他団体からの依頼事業

事　業　名	自然観察会（植物）
趣　　旨 （目 的）	身の回りの自然や生物多様性について知る。
内　　容	講師依頼を受け、江津湖で親子向けの観察会を行った。
成果及び効果 （参加者実績）	初めはあまり興味のなかった子どもでも、終わるころには一生懸命草花を探している様子が見られた。 色々な生きものに触れ合う楽しさを知るきっかけになったのではないかと思われる。
課題と対応	小さな子どもでも飽きずに参加できるような話題や工夫の準備が必要。

事業名	自然観察会（動物）
趣　　旨 （目 的）	身近な自然に親しみ、人と自然のあり方を考える
内　　容	野外での観察会 依頼により、立田山, 秋津校区, 八景水谷, 金峰山で計4回実施した
成果及び効果 （参加者実績）	子どもだけでなく大人からの反応も良かった。特に大人には生物多様性の重要性や人間活動が引き起こす諸問題について理解を深めることができたと思う。
課題と対応	リニューアル前でなかなか時間がとれず、4つのうち3つは下調査なしで実施してしまった。行き当たりばったりで実施するくらいならお断りするべきなのかもしれない。以後要検討。

（２）学校教育支援事業

事　業　名	学校教育支援事業：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ派遣授業（お出かけ事業）
趣　　旨 （目 的）	博物館が有する価値ある収蔵資料および学芸員・研究員の専門知識や技能を学校での学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。
内　　容	学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。担任の指導を補佐しながら資料や専門知識を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める。 （学校からの要請と受入担当学芸員の都合が合致する日時において、可能な範囲で派遣中）
成果及び効果 （参加者実績）	2月中旬時点で延べ5校（画図小、大江小、西原小、田迎西小）において派遣授業15時間を実施。子どもたちの意欲的な学習活動を支援し、確かな理解を促した（H29年度は延べ10校：27時間）。
課題と対応	リニューアルオープンに向けて館内業務に力を注ぐ必要があり、積極的な広報を行わなかったため昨年度より要請が減った。今後は校長会等での連絡周知を図り、年10校程度への派遣を継続していきたい。

事業名	学校教育支援事業：館内学習支援活動（お迎え事業）
趣　　旨 （目 的）	「館内学習プログラム集」を活用し、リニューアル後の学校団体利用時におけるオリエンテーション等において、館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。
内　　容	新設された講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、学習後の館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。 　学校団体予約時に館内学習プログラム集（配布済み）の中から１～２題材（１題材：１５分間程度）を選んでもらい、 要請に応じて実施する。 
成果及び効果 （参加者実績）	1月に杉上小6年（66人：歴史）、龍田西小6年（92人：歴史・地質）、2月に慶徳小3年（24人：民俗）、出水小3年（64人：民俗・動物）の館内学習を実施した。展示資料に関する見方や考え方の一端を学ぶことができ、上々の評価をいただいている。
課題と対応	希望日時が複数校重なったり担当学芸員が他の業務等に従事したりすることもあるため、全ての学校への対応が困難である。学習シートはHPからもダウンロードできるので、その際は学校独自で事前・事後の学習に生かしてもらえるよう配慮したい。

事　業　名	H30年度 小学校理科実験事故防止講習会（市教委指導課）
趣　　旨 （目的）	理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うと共に、実技指導をにより教師自身の技能向上に寄与する
内　　容	近年起こっている実験事故の事例紹介と対策講話、火気・薬品・ガラス器具等の取り扱い方に関する実演指導を行う。 主に小学校の理科担当者（理科主任）を対象に、アルコールランプの操作やガラス器具の加熱方法、気体を発生させる実験過程での留意点等について実技を交えてポイントを伝える。
成果及び効果 （参加者実績）	5月8日（火）、10日（木）、16日（水）の3日間（各2時間程度）にわたり、市内全小学校の理科担当者（90人余り）向けの講習会を行った。「参考になった、指導に活かしたい」との感想をいただいた。
課題と対応	１回につき３０名以上の参加者があるため、講習後に参加者が追実験・追操作する場の確保ができていない。次年度以降は、当館の「実験・工作室」を会場として活用し、操作実習も取り入れていきたい。

３．保存修理事業関係

事　業　名	細川家舟屋形解体移築等業務委託
趣　　旨 （目的）	熊本城の復旧計画と熊本博物館のリニューアル計画に合わせ、国指定重要文化財「細川家舟屋形」（以下、舟屋形）を一旦解体し、保存環境の整った本館への移築を行う。 H30年度は熊本博物館内での組み立てを実施。
内　　容	5月　新規展示台製作（設計～組立） 8月　組み立て開始 9月　天井画を九州国立博物館より搬入、本体へ組み込み。 11月　組み立て完了。 ※11月末、展示室ガラスに遮光シート設置 12月1日　リニューアルオープン  所蔵：公益財団法人　永青文庫　管理団体：熊本市
成果及び効果 （参加者実績）	本体を無事に組み立て完了し、展示完成。 リニューアルオープンと同時に一般公開。
課題と対応	展示室への誘導

事業名	縹糸威二枚胴具足修復業務
趣　　旨 （目 的）	細川忠利所用「縹糸威二枚胴具足」を修復し、展示可能な状態へと回復させる。
内　　容	平成29年度に寄贈された細川忠利所用「縹糸威二枚胴具足」は、近世初期大名甲冑の作例として、全国的に見ても貴重なもの。劣化した漆部分の修復については本漆（国産）を使用し、断裂した威糸(おどしいと)・揺糸(ゆるぎいと)の修復については古代～近世期に用いられた「クテ打ち（組手打）」技法を駆使するものとした。 （西岡甲房）
成果及び効果 （参加者実績）	リニューアルオープン展「記憶を未来につなぐ博物館」展示室１（第一期）において展示（初公開）。
課題と対応	今後は常設展示、企画展示等で展示活用予定。

事　業　名	重要文化財《木造東陵永璵禅師倚像》修復事業
趣　　旨 （目 的）	重要文化財《木造東陵永璵禅師倚像》（所蔵：雲巌禅寺、管理団体：熊本市）について、全面的な本格修理を行うことで経年による本躰の劣化進行を防ぎ、今後の長期的な保存と定期的な公開を目的とするもの。
内　　容	本躰および台座の表面に付着した経年の汚れ（埃等）および剥落といった劣化部分を全面的に修理した。九州国立博物館内で公益財団法人 美術院により実施した。
成果及び効果 （参加者実績）	全面的に汚れを除去し、剥落止めを行うことで、今後の長期的な保管と定期的な展示を行うことができる。
課題と対応	2019年度中は特別収蔵庫にて保管し、2020年度内に企画展を計画し、公開予定。

４．展示環境管理

事　業　名	民俗分野常設展示メンテ事業
趣　　旨 （目 的）	開館後、1年近い時間が経ったため、その間に積もった汚れや誇り等を除去することを目的とした
内　　容	民俗展示の多くが、露出展示や再現展示のため、日常的な清掃等では限界があり、そのため、専門業者によるメンテ等が必要となった。特殊なフィルターのついた掃除などを使い、粉塵がふたたび、館内にまき散らないように行った。また、カビ等が見られたものに関しては、エタノールによる拭き取りを行った。
成果及び効果 （参加者実績）	来客からクレームなく、展示が行われ、カビ等の広がりも阻止できた。
課題と対応	来年度、予算化できなかったため、日常的なメンテで何処まで対応できるのかが課題となる。

5. 塚原歴史民俗資料館関係

（1）展示活動（企画展等）

事業名	企画展「ブラジル移民の父　上塚周平と上塚家の人々」
趣　　旨 （目的）	ブラジルにおける日系人社会の礎を築いた上塚周平や、周平にかかわった上塚家の人々を郷土の偉人として検証するため。
内　　容	ブラジル移民の父と称される「上塚周平」や父「俊蔵」兄「真熊」従弟「司」従弟甥「乾信一郎＝上塚貞雄」について、上塚家所蔵資料を中心に展示した。　展示期間：8月7日～9月9日 
成果及び効果 （参加者実績）	６２５名
課題と対応	５人の人物を取り合えたため展示が、中途半端になってしまった。関連性の深い人物を取り上げ展示方法を工夫したい。

（2）資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

①講演会

事　業　名	企画展「ブラジル移民の父　上塚周平と上塚家の人々」関連講演
趣　　旨 （目的）	ブラジルにおける日系人社会の礎を築いた上塚周平や、周平にかかわった上塚家の人々を郷土の偉人として検証するため。
内　　容	上塚周平顕彰「いっぺいの会」代表の米原尋子氏に、「ブラジル移民の父　上塚周平と上塚家の人々」という演題で講演ただいた。周平はもとより、地域の発展に尽力した父俊蔵や真熊、アマゾン開拓に力を注いだ従弟の司、NHKのラジオドラマの脚本や小説家、翻訳家として活躍した従兄弟の乾信一郎など優れた人材を輩出した上塚家の人々について詳細にお話しいただいた。9月2日実施
成果及び効果 （参加者実績）	５３名
課題と対応	講師の関係者が多く参加。他町村に広報するなど工夫する。

②講座・教室等

事　業　名	考古学講座
趣　　旨 （目 的）	講義を通して学ぶ楽しさや考古学への興味を持ってもらい。文化財愛護心の高揚を図る。
内　　容	考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年11回開催（内2回は古文書講座と合同）。また４～５回は、最新の発掘成果等の話を織り込んでいる。
成果及び効果 （参加者実績）	１７７名
課題と対応	複数年受講している人も多く、新規受講生が少ない。メディア等の利用や周辺市町村への情報提供をしていく必要がある。

事業名	古文書講座
趣　　旨 （目 的）	古文書の解読や時代背景を学ぶことにより、歴史を学ぶ面白さを感じてもらう。年11回開催（内2回は考古学講座と合同）
内　　容	館外講師が設定した年間テーマに沿って、古文書の解読や時代背景について学ぶ。
成果及び効果 （参加者実績）	３０２名
課題と対応	考古学講座同様複数年受講している人が多く、メディア等の利用や周辺市町村への情報提供をしていく必要がある。

事業名	バックヤード体験教室（土器修復体験）
趣　　旨 （目 的）	博物館の裏側を体験し、博物館の仕事についての理解してもらうため
内　　容	土器のレプリカを使い、発掘された土器修復の模擬体験をしてもらう。 6月２４日・7月8日実施
成果及び効果 （参加者実績）	２８名
課題と対応	年齢層に幅がなく参加者が少ない。（５０～７０歳）タイトル等をわかりやすく工夫し、若い世代が参加しやすいよう工夫する。

事　業　名	学芸員と歩く野外博物館
趣　　旨 （ 目 的 ）	資料館周辺に残るのゆたかな自然や文化財を訪ねその魅力を実感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。
内　　容	塚原歴史民俗資料館に展示してある資料の見学と合わせて、資料館周辺に自生する野草や遺跡などの文化財を探訪する。4月1日・10月8日実施
成果及び効果 （参加者実績）	自然や文化財を肌で感じることができる。(14名)
課題と対応	参加者が少ない。マスコミや周辺市町村への情報提供が必要。

事　業　名	各種体験教室（土器作り、巴形銅器作り、勾玉作り、古代織作り、ちょっと昔体験、土器で文鎮作り）
趣　　旨 （ 目 的 ）	各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。
内　　容	熊本市に所在する資料などを参考に作成した体験用具を使って、ちょっと昔、昔、大昔のもの作りを体験する。年間１４回実施。 土器作り：4月22日・5月5日、8月10日・26日、10月28日・11月11日 巴型銅器作り：4月21日・8月９日 勾玉作り：8月8日　古代織作り：9月23日　ちょっと昔体験：11月３日 土器で文鎮作り：1月27日・2月24日　編布作り：2月２４日
成果及び効果 （参加者実績）	137人 複数の体験教室への参加者も増えている。
課題と対応	対応できる職員数が少ないため実施回数に制限あり。対応できる人員の確保が必要（ボランティア養成等）

平成 30 年度入館者状況（平成 31 年２月 28 日現在）

（単位：名）

施設		4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	合計
熊本博物館										11,500	10,161	7,688		**29,349**
	一般									7,014	5,124	4,210		16,348
	高校生・大学生									471	339	463		1,273
	小・中学生									2,761	3,709	2,002		8,472
	就学前児・乳幼児									1,254	989	1,013		3,256
（プラネタリウム）										7,067	6,811	5,151		19,029
	一般									3,707	2,976	2,383		9,066
	高校生・大学生									313	216	281		810
	小・中学生									2,503	3,339	2,161		8,003
	就学前児・乳幼児									544	280	326		1,150

※休館日における学習投映を含む

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	合計
塚原歴史民俗資料館	378	485	283	337	618	484	378	401	217	181	291		**4,053**

議事(2)

平成31年度事業計画について

〈熊本博物館関係〉

1. 展示活動(特別展・企画展等)
2. 博物館における教育・普及活動
3. 保存修理事業関係
4. 塚原歴史民俗資料館関係

〈熊本博物館関係〉

１． 展示活動（特別展・企画展等）

（１）特別展開催

事　業　名	大昆虫博2019
趣　　旨 （目的）	世界の美しい昆虫・珍しい昆虫を紹介することにより、昆虫の世界に興味を持っていただく。また、熊本県内で採集された昆虫も展示し、身近な知られざる昆虫の魅力を伝えることで足元の自然に目を向け、自然保護や生物多様性の保全にについて考えるきっかけとしていただく。
内　　容	第1室　現在東海大学で収蔵されている標本 （三宅コレクション：海外の甲虫類を中心に） 第2室　博物館で収蔵している標本（海外のチョウ類を中心に）， 県内で採集された昆虫 第3室　栗林彗氏が撮影した巨大写真の展示, 同映像コーナー その他：会期中に一日、栗林氏の講演会 （プラネタリウム室にて） 学芸員によるギャラリートーク5回程度 
対象者	一般市民
期　間	7月20日（土）～8月25日（日）

事　業　名	秋季特別展　追憶の熊本　～画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶～（仮）
趣　　旨 （目的）	熊本城ホールの完成、天守閣の外観復元など、画期となる2019年を記念して熊本出身の画家・甲斐青萍が描いた町並図屏風、その他関係資料を展示するもの。展覧会に関するイベント（事前講座、講演会、まち歩きなど）も実施予定。
内　　容	会場：熊本博物館特別展示室（第１室・第２室・第３室） 第1室　熊本城下の成り立ちと発展（仮） 青萍筆「江戸町並図」やその他資料を手掛かりに、熊本城／城下の成立を紹介。 第2室　熊本城下の近代化（仮） 青萍筆「明治町並図」「昭和町並図屏風」。明治～昭和期城下町の変遷をたどる。 第3室　追憶の熊本～「熊本城下」の未来へ～（仮） 青萍が描いたスケッチなど。花畑町再開発から「熊本城下」の未来を考える。 ※講演会開催：１０月１２日（土） 講師：熊本大学名誉教授　伊藤重剛先生 町並探索：１０月２６日（土） 案内人：熊本大学名誉教授　伊藤重剛先生・当館学芸員 その他：会期中に「NPO法人熊本まちなみトラスト」講演会などを実施予定 
対象者	一般市民
期　間	10月5日（土）～11月24日（日）

（２）企画展・共催展開催

事　業　名	春季企画展　きらめく！大名道具 - 細川家の「華」と「武」の世界 -
趣　旨 （目的）	当館初の試みとして、熊本県立美術館との連携企画展として開催するもの。 公益財団法人　永青文庫および県立美術館からの借用品を中心に、大名細川家に伝来した武具甲冑類や調度品類などを展示。
内　容	会場：熊本博物館特別展示室（第１室・第２室） 主な展示予定資料 第１室「細川家の「華」の世界」 ・・・違鷹羽紋菊唐草文蒔絵女乗物ほか 第２室「細川家の「武」の世界」 ・・・六代目細川宣記所用具足ほか ※5月6日（月・祝）、展示関連イベントとして 熊本県立美術館×熊本博物館リレーミュージアムトークを開催予定。 
対象者	一般市民
期　間	4月20日（土）～7月7日（日）

事　業　名	第11回『地質の日』企画『身近に知るくまもとの大地』（共催展）
趣　旨 （目的）	熊本県内の大学や自然史系博物館等が合同で、５月１０日「地質の日」に合わせ、一般市民にくまもとの大地や岩石、化石等に親しんでもらうことを目的とした展示・イベント
内　容	前年度まではフズリナの磨り出しや鉱物パンニング体験など、体験プログラムを主体に行った。今年度は熊本市中心市街地 「びぷれす広場」で体験イベントを実施し、 その後、熊本博物館特別展示室３にて、化石や岩石、火山、地盤災害に関する展示を実施する予定。 
対象者	一般市民
期　間	５月11日（土）びぷれす広場にて体験イベント ５月12日（日）～６月２日（日）熊本博物館にて展示

事　業　名	自然のおいしい味わい方展
趣　旨 （目的）	誰もがもつ本能的欲求である「食欲」に訴えかけることで、普段は自然の展示会に足を運ばない客層にも興味を持ってもらい、日常生活の一部である「食事」と自然資料を関連付けて解説することで来館者の心に驚きや実感を湧きおこさせ、展示資料やその背景にある自然を身近に感じてもらうことを目的とする。
内　容	動物・植物分野では“実は食べてみるとおいしい”魚類や種子などの実物資料と、実際に調理した写真やレシピなどを共に展示し、生物学的な背景や人間との関わりなどの情報と関連付けて解説する。 地質分野では岩石・鉱物・化石を食器などを演示具に用いて、全く別の食べ物に見せる演出を行い、「なぜ両者が似ているのか？」という視点から、その石が持つ形態や成因などの特徴を紹介する。 
対象者	一般市民
期　間	6月8日（土）～ 7月7日（日）

事　業　名	国立科学博物館連携事業「生命のれきし　～君につながるものがたり～」
趣　　旨 （目的）	国立科学博物館の多様な標本資料を地域の博物館で展示する巡回展示。 地球が誕生して４６億年の歴史を、地球最古の岩石や原始的な生物の化石、恐竜や哺乳類の化石などをもとにたどる地球史・生物史に関する展示会。
内　　容	国立科学博物館の巡回展示 【主な展示資料　（変更になる場合があります）】 ・オデッサ隕石 ・アカスタ片麻岩（地球最古の岩石、３８億年前） ・アノマロカリス、ピカイアなどのバージェス動物群 ・プシロフィトン（初期の原始的植物） ・始祖鳥産状化石 ・ニッポノサウルス全身骨格 ・パレオパラドキシア ・ナウマンゾウの頭骨 ・ケナガマンモスの臼歯 
対象者	一般市民
期　間	１２月３日（火）～２０２０年１月２６日（日）

事　業　名	企画展「宮本常一が歩いた熊本」
趣　　旨 （目的）	宮本常一（1907～1981）は戦後、日記で確認できる限り昭和30年代を中心に、15回熊本に来ています。宮本常一が熊本の何処を訪ね、何に興味を持ったのか、彼が撮影した写真と、当時の熊本の様相を展示し、移り変わる熊本を見ていきます。
内　　容	主催） 　熊本博物館・熊本県博物館ネットワークセンター・熊本大学五高記念館 協力） 　周防大島町立周防大島文化交流センター 第1室　「宮本常一とその時代」 　　周防大島にある宮本常一関連資料と、宮本常一自身の写真等を展示予定 第2室　「移り変わる熊本」 　　戦後から高度成長期にかけての庶民の暮らしに関する熊本博物館所蔵の資料を展示予定 第3室　「宮本常一が見た熊本」 　　周防大島にある宮本常一が撮った熊本の写真をパネル展示予定 ※講演会開催：宮本常一記念館学芸員及び別府大学教授による講演会を予定 
対象者	一般市民
期　間	2月8日（土）～3月22日（日）

（3）その他展示会

事　業　名	第５３回　肥後しゃくやく展
趣　　旨 （目 的）	鑑賞できる機会が少ない貴重な肥後芍薬を一般の方にもより知ってもらうための鑑賞の機会として開催する。
内　　容	市内在住の栽培者の方より提供していただく肥後しゃくやくを切り花にて展示する。 開催場所：塚原歴史民俗資料館
対　象　者	一般市民
期　　間	5月5日（日・祝）、6日（月・祝）

事　業　名	第59回　肥後朝顔秋の展示会（共催）
趣　　旨 （目 的）	肥後六花の１つである肥後朝顔を、広く一般の方々に鑑賞して頂き、普及・発展を図ると同時に、伝統園芸を後世へ伝える。 開催場所：熊本市動植物園
内　　容	涼花会会員および熊本城総合事務所の出品により、肥後朝顔を展示する。あわせて、写真・解説パネル等の展示や来場者には会員による栽培法や観賞法などの解説を実施予定。
対　象　者	一般市民
期　　間	9月6日（金）～8日（日）

（4）プラネタリウム関係

事　業　名	プラネタリウム投映
趣　　旨 （目 的）	星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。
内　　容	①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、職員の解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。 ②幼稚園・保育園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。 ③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年内に1度開催）」等を実施する。
対象者	一般市民
期　間	2019年度中

２．博物館における教育・普及活動

（１）講座・講演会等

① 通年講座の開催

事　業　名	考古学専門講座　濱田耕作『通論考古學』を学ぶ
趣　旨 （目的）	アカデミズムとしての考古学を学び、広く、大きく、高い視点から世界史の中に日本の各時代を位置づけ、あるいは外から見た日本と熊本の特徴などを知り、地域再発見のきっかけとすることを目的とする。
内　容	古典的名著である濱田耕作『通論考古學』を読み、専門的なことをやさしく伝えることで、今一度原点に返って学びなおし、細分化する一方で蓄積資料は膨大になり、全体像が掴みにくくなっている考古学の現在を改めて見つめるきっかけとするもの。 講座予定 第1回　5月29日（水）　第1篇　序論 第2回　7月31日（水）　第2篇　資料 第3回　9月26日（木）　第3篇　調査 第4回　10月30日（水）特論「発掘現場見学」 第5回　11月28日（木）第4篇　研究 第6回　12月18日（水）特論「様式・型式・形式」 第7回　1月29日（水）　第5篇　後論 第8回　2月27日（木）　特論「考古学写真」 第9回　3月26日（木）　まとめ
対　象　者	一般市民（４０名程度）
期　間	平成31年5月29日～平成32年3月26日

事　業　名	民俗学講座
趣　旨 （目的）	日本で行なわれてきた民間信仰や年中行事そして民俗芸能などについて熊本の事例を中心に学習し、熊本の魅力や文化の再発見に寄与すること
内　容	当館、学芸員による民俗学に関する通年の講座。
対象者	一般市民（４０名程度）
期　間	５月～来年２月（月1回程度：主に第2火曜）

事　業　名	動物学講座
趣　　旨 （目 的）	海のものから山のものまで、あらゆる動物について学び、身近な自然に親しむことを目的とする。 動物としてのヒトが、自然といかに関わっていくべきかを常に考えながら取り組む。
内　　容	動物に関する座学または野外での観察会
対象者	小学校４年生以上大人まで（４０名程度）
期　間	月1回 年間計10回通年の講座（第3土曜を中心に） ※6月と1月を除く

事　業　名	植物学講座
趣　　旨 （目 的）	植物に関する話題や情報を提供することにより、植物に関する理解や知識を深めてもらい、共通の関心を持つ人々のつながりやコミュニケーション形成を図る。
内　　容	館内での座学や野外での観察会を行う。身近な植物や季節の話題などを中心に、初心者にも楽しめる情報・話題を提供する。
対象者	一般市民（４０名程度）
期　間	５月～１２月、月１回実施

事　業　名	地質学講座
趣　　旨 （目 的）	化石・岩石・鉱物・火山などの特徴や成因を学び、熊本の大地の成り立ちや我々の暮らしとの関わりについて考える通年講座。
内　　容	午後１４時～１５時30分。定員は40名程度。 各回のテーマ（予定） ・第１回（４月）　熊本の地質概要 ・第２回（６月）　岩石とその利用（＋企画展の見どころ紹介） ・第３回（８月）　化石と地質年代 ・第４回（１０月）火山 ・第５回（１２月）鉱物（＋巡回展の見どころ紹介） ・第６回（２月）　地盤災害と大地の恵み
対象者	一般市民（４０名程度）
期　間	４月～来年２月　隔月（偶数月）開催：主に第３日曜日

② 野外活動・研究関係

事　業　名	化石採集会
趣　　旨 （目 的）	野外での化石採集を体験してもらい、化石や地質に関する興味・関心を高めるきっかけとする。
内　　容	天草もしくは荒尾方面で小・中学校の夏休みと春休み期間中に各１回ずづ化石の採集会を行う。
対象者	小・中学生とその保護者
期　間	夏休み１回、春休み１回

事　業　名	自由研究相談会
趣　　旨 （目 的）	小中学生の主に夏休みに行う自由研究を支援することにより、科学的なものの見方や考え方を養う。
内　　容	1回目：自由研究のテーマについての相談を受ける。 2回目：自由研究のまとめ方の指導や同定依頼に対応する。
対象者	どちらか一方だけの参加も可。 往復ハガキもしくはホームページによる事前応募。
期　間	1回目：7月20日（土） 2回目：8月17日（土）

③ その他の講座、講演会等

事　業　名	天文講演会
趣　　旨 （目 的）	天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会として、第一線で活躍されている研究者の先生方をお招きし、最新の天文学について講演いただく。
内　　容	天文・宇宙分野で第一線で活躍されている研究者の先生方をお招きし、最新の天文学について講演いただく。 H31年度は7月・9月・1月・3月の計４回開催予定。 ９月は愛媛大学宇宙進化研究センター長の粟木久光氏を招聘予定。
対象者	一般市民
期　間	年に４回実施（予定）

事　業　名	クマハクのフ・シ・ギーその１・美術編ー（仮）
趣　　旨 （目 的）	熊本博物館所蔵の美術資料を多くの人に知ってもらうため。
内　　容	美術資料の中でも絵画資料を中心に紹介する。掛軸の取扱いや調書の取り方などについても紹介し、自宅にある掛軸の整理に役立ててもらう。
対象者	一般市民
期　間	2月15日（土）13：30～14：30（予定）

〈5月ゴールデンウイーク中の催し予定〉

日　程	イベント	内　容	場　所	対象者
4月27日（土）	火起こし・石臼体験！きな粉を作ろう	火打石で火を起こし、炒った大豆できな粉を作りましょう。	実験・工作室	小学生4年生以上
	漢詩の世界へようこそ	本物の資料をもとに、漢詩の奥深い世界を味わってみなせんか!?	講堂	小学校高学年以上
4月28日（日）	結晶作り【子ども科学・ものづくり教室】	小さなミョウバンの結晶を大きく育ててみましょう。どんな形かな？	実験・工作室	小・中学生
4月29日（月・祝）	草木染め体験	身近な植物を使って自分だけのオリジナルハンカチを作りましょう。	実験・工作室	小・中学生
4月30日（火・休）	みんなで考古学	本物の土器や石器を見て、さわって考古学者になりましょう！	実験・工作室	一般市民
5月1日（水・祝）	火起こし・石臼体験！きな粉を作ろう	火打石で火を起こし、炒った大豆できな粉を作りましょう。	実験・工作室	小学生4年生以上
	宮沢賢治の星座早見を作ろう	プラネタリウム番組に登場する星座早見を作って星座を探しましょう。	講堂	一般市民
5月2日（木・休）	生きもの観察会	博物館のまわりを歩いて、いろいろな生きものを観察しましょう。	博物館周辺	一般市民
5月3日（金・祝）	カラフルアンモナイトを作ろう	カラフルなプラスチックねんどでアンモナイトを作ろう！	実験・工作室	小・中学生
	舟屋形の天井画	永青文庫所蔵「細川家舟屋形」の修理について紹介します。	講堂	一般市民
5月4日（土・休）	刀のい・ろ・は	刀剣鑑賞のポイントや基本的な取り扱いについて学びましょう。	講堂	一般市民
5月5日（日・祝）	科学工作 【子ども科学・ものづくり教室】	「風船CDホバークラフト」や「紙back！？」を作って動かしてみましょう。	実験・工作室	小・中学生
	鉱物パンニング体験	砂金探しの要領で、きれいな鉱物を見つけよう！	博物館南側入口	一般市民
5月6日（月・振）	リレーミュージアムトーク	熊本県立美術館と熊本博物館の連携企画展「きらめく！大名道具」について、両館の学芸員が解説します。	熊本博物館 熊本県立美術館	一般市民
	博物館周辺の考古学	博物館周辺の過去に調査された場所を巡り、昔と今の違いを探ります。	博物館周辺	一般市民

（２）学校支援事業

事　業　名	子ども科学・ものづくり教室
趣　　旨 （目的）	小・中学生向けに「科学実験や科学工作」などの直接体験の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や伝統文化も含む）について理解する機会を提供する。 ※子どもの心に「不思議の種（ふしぎだね）」を蒔く。
内　　容	色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学をテーマとした内容の他、合金を使った銅器作り・葉脈標本作り・アンモナイトのレプリカ作りなど、理工に関する内容のほか植物・考古・地質に関する内容も取り入れ、内容の充実を図る。 また、科学実験・工作等のイベント開催経験のある教育機関・諸団体等との連携を図り、より魅力的な教室運営を行う。 新設の「実験・工作室」「講堂」を主会場として全26回以上の開催を目指す（内：塚原歴史民俗資料館で7回実施予定）。
対象者	小中学生（引率の保護者も含む）
期　間	2019年度中

事　業　名	学校ＰＴＡ活動・社会教育施設等での科学教室開催
趣　　旨 （目的）	自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級PTA活動や公民館講座などに講師として参加し、内容の充実及び、活動目的の達成のための支援を行う。
内　　容	学校での学年・学級PTA活動「親子で楽しむ科学・ものづくり」 市立公民館での出前講座 ※子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつか題材を選び、２時間程度で可能な活動を楽しむ。
対象者	児童・保護者・教師・PTA役員
期　間	2019年度中

事　業　名	学校教育支援事業：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰ派遣授業（お出かけ事業）
趣　　旨 （目的）	博物館が有する価値ある収蔵資料および学芸員・研究員の専門知識や技能を学校での学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。
内　　容	学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。担任の指導を補佐しながら資料や専門知識を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める。 学校からの要請と受入担当学芸員の都合が合致する日時において、無理のない範囲で派遣する。
対象者	主に熊本市内の全小学校の児童・生徒・教師（９２小学校）
期　間	2019年度中

事　業　名	学校教育支援事業：館内学習支援活動（お迎え事業）
趣　　旨 （目的）	「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。
内　　容	見学オリエンテーションの際に、引率教師と学芸班職員（学芸員・研究員）との協働による授業形式で展示物の魅力や価値を紹介し、館内見学（学習）への期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。 　団体予約時に館内学習プログラム集の中から１～２題材（１題材：１５分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施する。
対象者	小中学校団体全般
期　間	2019年度中

事　業　名	小学校理科実験事故防止講習会（市教委指導課）
趣　　旨 （目的）	理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うと共に、実技指導を通して教師自身の技能向上に寄与する。
内　　容	近年起こっている実験事故の事例紹介と対策講話、火気・薬品・ガラス器具等の取り扱い方に関する実演指導を行う。 　主に小学校の理科担当者（理科主任）を対象に、アルコールランプの操作やガラス器具の加熱方法、気体を発生させる実験過程での留意点等について実技を交えてポイントを伝える。
対象者	小中学校教師（教職員研修）
期　間	2019年５月中（４回実施予定）

事　業　名	教職員研修等への協力支援（主催・参画・協力等）
趣　　旨 （目的）	学校教育支援事業を補完する諸活動を実施し、博学連携の一層の充実を図る。
内　　容	○夏季休業中の教職員講座「館内プログラム解説編」 ○小中学校「理科実験・事故防止講習会」（再掲） ○指導課・教育センター主催講座の補助 ○教科等主任会（社会・理科主任会等）からの要請講座 ○教職員・中学生社会体験研修　など
対象者	熊本市内教職員（教育行政職員・児童・生徒）
期　間	2019年度中

事　業　名	博物館⇔スクールシャトルバス事業
趣　　旨 （目 的）	小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
内　　容	上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバス（大型バス：延べ18台）を借り上げて運行する。 　館内スケジュールについては学校と相談して決定する（基本的な流れはプラネタリウム学習投映＋館内学習プログラム体験（1～2本）＋館内展示物見学＝2時間半程度）。
対象者	主に富合・植木・城南地区の小学校：12校の中学年児童・教師
期　間	2019年度中

（４）博物館実習受け入れ

事　業　名	博物館実習
趣　　旨 （目 的）	学芸員を希望する学生のために行うもの
内　　容	博物館学に関する実習。1週間程度。
対象者	学生
期　間	8月下旬・9月上旬

３．保存修理事業関係

事　業　名	生人形修復
趣　　旨 （目的）	経年劣化してきた生人形の頭や手を修復し、後世に残すことを目的とする。
内　　容	頭1点、手1点
備　考	
期　間	2019年度中

事　業　名	蚕の模型製作
趣　　旨 （目的）	展示されている養蚕道具の理解を深めるため
内　　容	蚕を複数、大きさにあわせて作成する
備　考	
期　間	2019年度中

4. 塚原歴史民俗資料館関係

（1）展示活動（企画展等）

事　業　名	企画展「収蔵資料展（仮題）」
趣　　旨 （目 的）	郷土の歴史や文化財についてより深く知ってもらうため
内　　容	塚原歴史民俗資料館収蔵資料を使った展示
対象者	一般市民
期　間	１０月～１１月まで60日程度



（2）資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

事　業　名	考古学講座
趣　　旨 （目 的）	講義を通して学ぶ楽しさや考古学への興味を持ってもらい。文化財愛護心の高揚を図る。
内　　容	考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年11回開催（内2回は古文書講座と合同）。また４～５回は、最新の発掘成果等の話を織り込んでいる。
対象者	一般市民
期　間	2019年度中

事　業　名	古文書講座
趣　　旨 （目 的）	古文書の解読や時代背景を知ることにより、歴史を学ぶ楽しさを学んでもらう。
内　　容	館外講師が設定した年間テーマに沿って、　古文書の解読や時代背景について学ぶ
対象者	一般市民
期　間	2019年度中

事　業　名	学芸員と歩く野外博物館
趣　　旨 （目的）	資料館周辺に残るのゆたかな自然や文化財を訪ねその魅力を実感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。
内　　容	塚原歴史民俗資料館に展示してある資料の開設お合わせて、資料館周辺の野草の観察や遺跡の探訪
対象者	一般市民
期　間	2019年4月7日・10月13日

事　業　名	バックヤード体験教室（土器修復体験）
趣　　旨 （目的）	博物館の裏側を体験し、博物の仕事についての理解してもらうため
内　　容	土器のレプリカを使い、発掘された土器修復の模擬体験をしてもらう。
対象者	一般市民
期　間	６月２３日・７月１４日

事　業　名	各種体験教室（土器作り・巴形銅器作り・勾玉作り・古代織作り・編布作り・ちょっと昔体験・花押作り・埴輪作り）
趣　　旨 （目的）	各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。
内　　容	熊本市に所在する資料を基に作成した体験用具を使って、ちょっと昔、昔、大昔　を体験する。
対象者	一般市民（一部小中学生対象）
期　間	2019年度中に１５回